

自動車会議所 ニュース

発行所



一般社団法人 日本自動車会議所
Automobile Business Association of Japan

〒105-0012

東京都港区芝大門1-1-30 日本自動車会館

電話：03(3578)3880

FAX：03(3578)3883

URL

http://www.aba-j.or.jp



2019 **4** No.915

発行人 山岡 正博 編集人 田村 里志

「日本自動車会館 キッズエンジニア」開催



300人の児童が来場

日本自動車会館
・自動車技術会

埼玉自動車大学校による整備体験で一生懸命にタイヤ交換にトライする子どもたち

日 本自動車会館（入館14法人）は3月27日、小学生を対象とした学習イベント「日本自動車会館 キッズエンジニア」を同会館（東京・港区芝大門）で開催した。来場した児童は約300人（主催者推計）に上り、多くの親子連れで賑わった。当イベントは公益社団法人 自動車技術会との共催で、自動車メーカー、部品メーカー、自動車大学校、自動車関係団体による8つのプログラムを企画。イベントを通じて子どもたちに自動車を中心とした、さまざまな科学分野に触れてもらう機会を提供した。

当日のイベントプログラムは、企業のエンジニア

などが講師となってじっくりと学べる「教室型プログラム」（4種類）と、気軽に自由に参加できる「体験展示型プログラム」（4種類）の2タイプ・8種類。参加した子どもたちは、本物のクルマの機構や部品に触れたり、各メーカースタッフの指導で工作したりするなどして、楽しそうにクルマ関連技術を学んでいた。当会館や各メーカーなどの協力スタッフからは、子どもたちが自動車に関する科学や技術に興味を持ち、自動車のファン、ひいてはエンジニアになってくれることを期待する声が聞かれた。

＝イベントの概要・模様は7～9ページに掲載＝

◆◆ 主な内容 ◆◆

- | | |
|---------------------------------|---|
| ■ 第2回交通安全委員会開催.....2 | ■ 第256回会員研修会開催.....12 |
| ■ 第3回特別委員会開催.....5 | ■ 2018年度会員研修会開催実績.....13 |
| ■ 日本自動車会館 キッズエンジニア詳報.....7 | ■ 東京モーターショー2019のショーテーマとロゴデザインが決定.....14 |
| ■ 2018年度全国自動車会議所永年勤続者表彰式.....10 | ■ 東京モーターサイクルショー開催 [東京都].....14 |

(主な記事はホームページ＝http://www.aba-j.or.jp＝にも掲載しています)

警察庁交通局交通企画課の植垣警視が講演 「平成30年における交通死亡事故の主な特徴」



2018年度の活動進捗なども審議

第2回 交通安全委員会開催

開会の挨拶に立つ木場委員長。末場委員長の右および写真円内が植垣警視

日 本自動車会議所は3月18日、東京・港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で、2018年度第2回交通安全委員会（委員長＝木場宣行・日本自動車整備振興会連合会専務理事）を開催した。最初に、警察庁交通局交通企画課課長補佐の植垣浩太郎警視より「平成30年における交通死亡事故の主な特徴」についてご講演をいただいた。その後、交通安全委員会の2018年度の活動進捗及び来年度委員会活動について事務局より報告が行われ、了承された。

1. 平成30年における交通死亡事故の主な特徴について（講師：警察庁交通局交通企画課課長補佐 植垣浩太郎警視）

【講演要旨】

＜平成30年における交通死亡事故の特徴＞

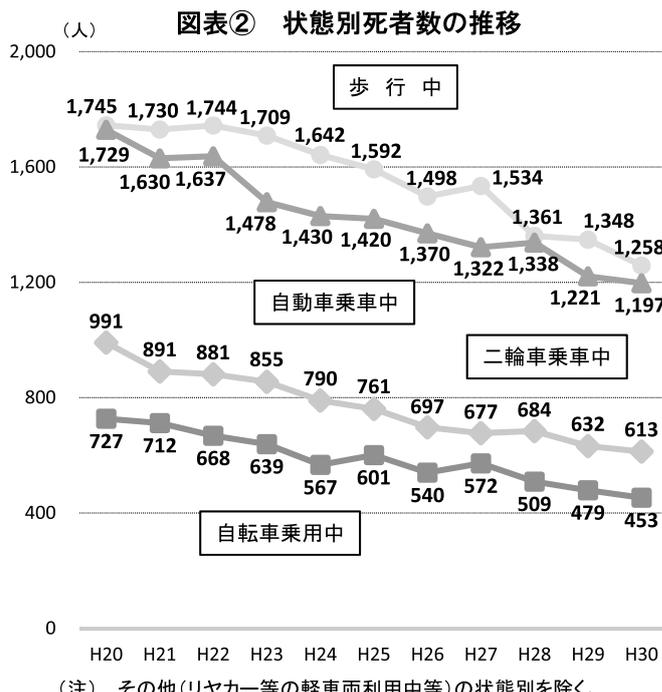
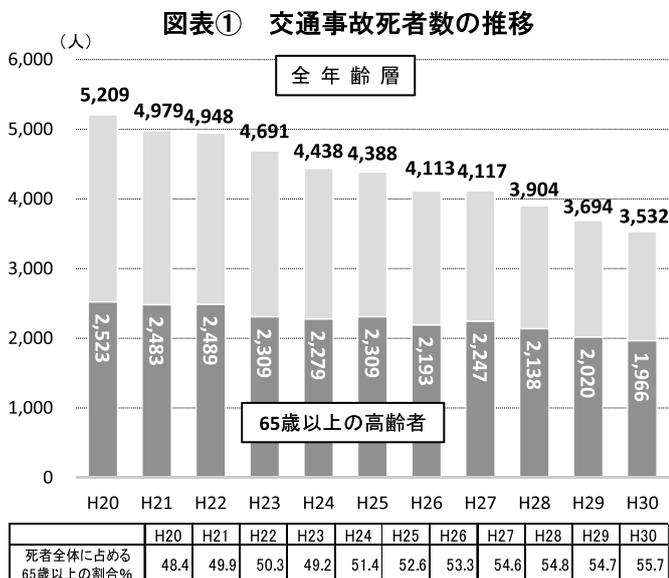
平成30年における交通事故死者数は、平成20年と比較して、全年齢層で32%、高齢者で22%減少して

おり減少傾向にある。（図表①）

また、人口10万人当たりの死者数についても、平成20年と比べて全年齢層で32%、高齢者で39%減少しているが、高齢者の死者数は5.59人で、全年齢層の2.79人と比べて約2倍となっており、高齢者が事故により死亡するリスクが高い状態が続いている。

また状態別死者数の推移では、歩行中、自動車乗車中、二輪車乗車中、自転車乗用中いずれも平成20年と比較して、減少傾向である。（図表②）

一方、主な欧米諸国との状態別死者数の構成比を比較すると、歩行中・自転車乗用中の死者数の占める割合は、主な欧米諸国では20%～30%程度であるのに対し、日本は50.1%と高く、特に高齢の歩行者



や自転車事故を減らす対策が重要となっている。(図表③)

・歩行中／自転車乗用中死者の法令違反状況について

全死者の約4分の1を占める高齢歩行者のうち、約6割に法令違反があり、高齢者以外と比較して、安全確認や操作不適などの「横断違反」の割合が高い。(図表④)

また、高齢者の自転車乗用中死者のうち、約8割に法令違反があり、高齢者以外と比較して「安全運転義務違反」の割合が高い。(図表⑤)

・高齢運転者による交通死亡事故について

免許人口当たり的高齢運転者の交通死亡事故件数を見ると、75歳以上の高齢運転者は、75歳未満の運

転者と比較して死亡事故が多い。(図表⑥)

こうした状況に対応するため、「運転免許証の自主返納制度の周知」、「安全運転サポート車の普及促進」等、高齢運転者の事故防止対策を進めているところである。

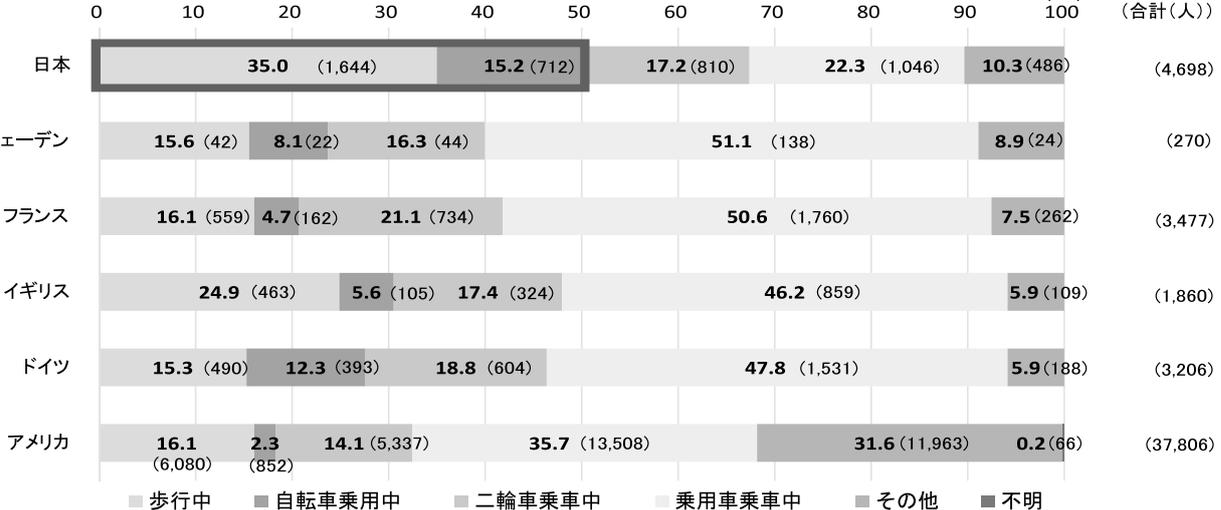
・飲酒死亡事故について

飲酒運転による悲惨な事故を受け、累次にわたって飲酒運転の厳罰化がなされてきた。飲酒死亡事故については20年前と比較して大幅に減少したものの、近年では下げ止まりの状況にある。(図表⑦)

飲酒運転による死亡事故を免許人口当たりで見ると、30歳未満の若い世代の件数が多い。(図表⑧)

飲酒運転による事故の死亡事故率は、飲酒なしの事故と比較して約8.3倍高く(図表⑨)、飲酒運転の

図表③ 主要先進国との状態別死者数の構成比比較 (2016年)



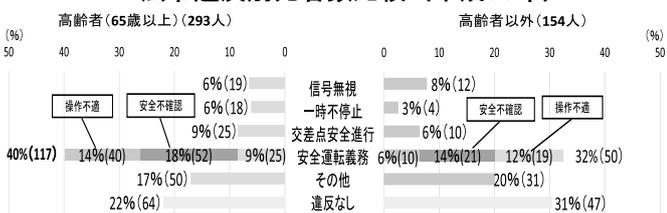
(注) ・ 国際道路交通事故データベース(IRTAD)資料による。 ・ 「()」内は死者数である。 ・ 死者数の定義は事故発生後30日以内の死者である。 ・ 「その他」とは、貨物車乗車中等をいう。

図表④ 歩行中死者(第1・第2当事者)の法令違反別死者数比較(平成30年)

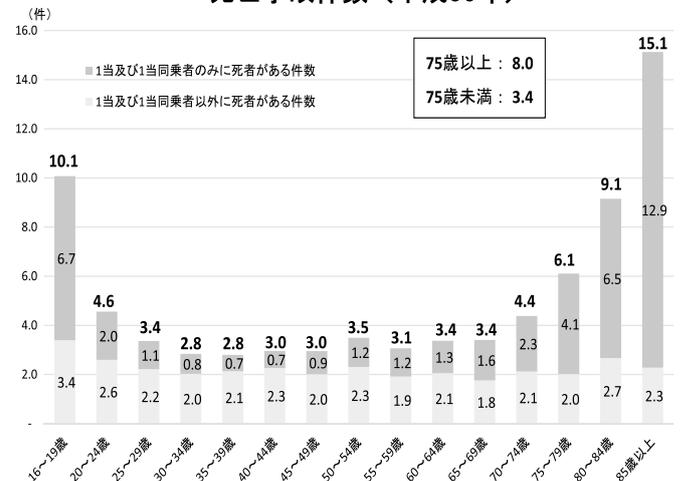


(注) 「横断違反」とは、横断歩道外横断、走行車両の直前直後横断等をいう。

図表⑤ 自転車乗用中死者(第1・第2当事者)の法令違反別死者数比較(平成30年)



図表⑥ 年齢層別の免許人口10万人当たり死亡事故件数(平成30年)



(注) ・ 算出に用いた免許人口は、平成30年12月末現在の値である。 ・ 「1当及び1当同乗者以外に死者がある事故」については、1当及び1当同乗者に死者がある場合を含む。 ・ 無免許の件数を除く。

根絶のため、若年層への更なる啓発活動が必要である。

その他、

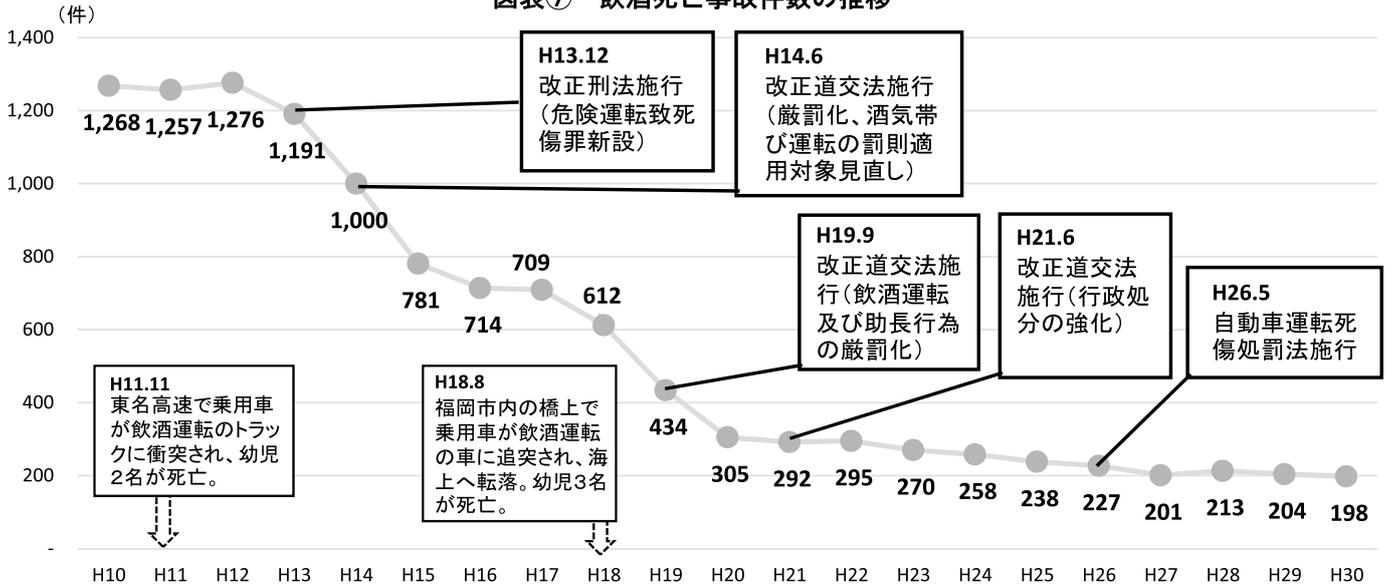
- ・シートベルト着用有無での死亡事故
- ・携帯電話使用等に係る交通事故
- ・危険認知速度と交通死亡事故の相関
- ・小学生歩行中の交通事故

等の分析結果についても説明された。

2. 委員会報告

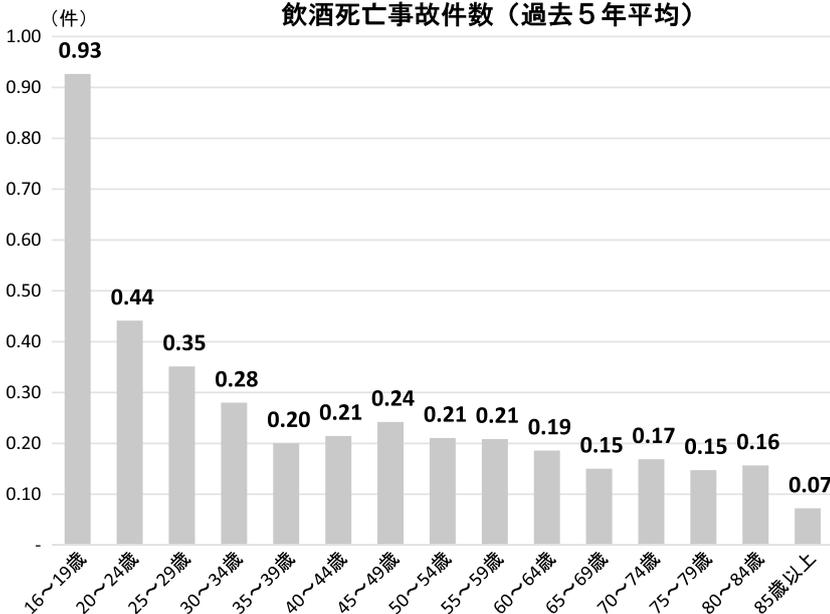
平成30年度の活動進捗報告として、当会議所主催の「交通安全。アクション2019 新宿」(4月6日、7日開催)の企画・実施計画が事務局より報告された。また、来年度の委員会活動については、交通安全委員会は新しく設置される道路・交通委員会に整理・統合される旨、事務局が報告を行い、全て了承され委員会は終了となった。

図表⑦ 飲酒死亡事故件数の推移



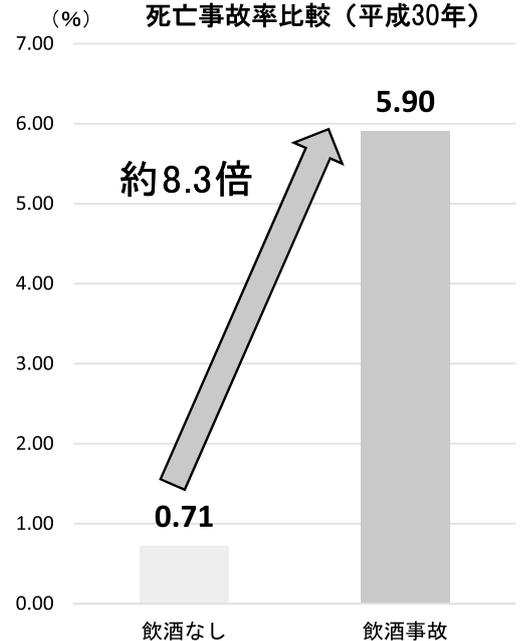
(注) 「飲酒死亡事故」とは、第1当事者の飲酒状況が酒酔い(※1)、酒気帯び(※2)、基準以下(※3)、検知不能(※4)のいずれかに該当する場合の死亡事故をいう。
 ※1 「酒酔い」とは、アルコールの影響により正常な運転ができないおそれがある状態をいう。
 ※2 「酒気帯び」とは、呼気1リットルにつき0.15mg以上のアルコールを身体に保有する等の状態をいう。
 ※3 「基準以下」とは、酒気を帯びて運転した者で、呼気1リットルにつき0.15mg未満のアルコールを身体に保有する等の状態をいう。
 ※4 「検知不能」とは、関係者の証言等から飲酒していることは判明したが、事故発生後相当時間が経過しているため体内に保有するアルコール量を測定できなかったもの等をいう。

図表⑧ 年齢層別免許人口10万人当たり飲酒死亡事故件数(過去5年平均)



(注) 各年件数を各年12月末の免許人口で除して平均した件数である。ただし、無免許の件数を除く。

図表⑨ 飲酒事故における死亡事故率比較(平成30年)



今後の会議所ホームページによるイベント情報発信 とクルマ好きを育む活動について審議



第3回 特別委員会開催

日 本自動車会議所は2019年3月4日、東京・港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で、第3回特別委員会（委員長＝和辻健二・日本自動車工業会常務理事）を開催し、クルマ好きを育む活動の支援、第46回東京モーターショー2019の来場促進、当会議所の情報発信の強化について審議を行った。

開会にあたり、当会議所山岡正博専務理事の就任挨拶のあと、和辻委員長から昨年10月に開催された、自工会主催の東京モーターフェス（以下、TMF）に対する関係団体の支援協力へのお礼と、第46回東京モーターショー（以下、TMS）への協力要請があった。

続いて、当会議所の畠山太作常務理事から、「3月1日の当会議所理事会において委員会活動の見直し案が承認され、特別委員会テーマは、新規の『経済・産業委員会』で取り上げていく予定」との報告が行われた。

1. 自動車関連情報の発信状況

2017年8月、当会議所ホームページ（以下、HP）に掲載を開始した「クルマの情報館」の2018年1～12月のアクセス数が報告され、掲載件数は約2,000件、サイト内で見られたページビュー（以下、PV）は約25万件となった。

1年を通じたアクセスランキングのトップは「原付二種免許、最短2日で警察庁が規制緩和、二輪業界は歓迎（2018/4/9掲載）」がPV6,000件超えとなる圧倒的1位となった。閲覧者は、16歳前後の高校生と見られ、インターネット検索サイトに、キーワード「原付二輪 免許」と入力すると、ピーク時のアクセスランキングはMSNで4位、Yahoo! JAPANとGoogleで5位に掲載された。

上位ランキングについては、2位「交通事故、自動ブレーキの普及で追突が目立って減少（2018/2/16）」、4位「自動ブレーキの普及加速、昨年の装着率9割前後（2018/2/22）」、8位「高齢者免許更新早めに、検査・講習予約取れずに失効も（2018/1/5）」という、いずれも警察庁が発表したニュースが入った。

5位「全ト協、第50回全国トラックドライバー・コンテストを開催（2018/7/5）」、9位「全日本トラック協会会長が坂本克己氏に交代（2018/6/30）」の運輸関係が上位となり、主にトラックドライバーによる閲覧とみられる。

イベント関係では、3位「日本自動車会館 親子キッズエンジニア開催（2018/1/31）」、10位「参加体験型イベント 交通安全。アクション2018 新宿4月開催（2018/3/7）」、13位「JARI 第31回国際電気自動車シンポ・展示会EVS31を12年振りに開催（2017/10/23）」と続く。

その他、6位「自動車用動力伝達技術研究組合（TRAMI）発足（2018/5/16）」の産学官連携の開発情報、7位「自動車整備工場、エーミング作業になお課題（2018/4/26）」といった運転支援装置の整備にも関心が高いことがうかがわれる。

11位「国交省補正予算 UDタクシーに追加補助金 災害時協定が要件（2018/1/30）」、12位「国交省 二輪車高速道路乗り放題拡充、来春から首都圏以外でも（2017/12/2）」については、ドライバー特典につながる情報は比較的閲覧が多いことが分かった。

また、都道府県別掲載件数では、東京を除き、愛知46件、北海道45件、静岡43件、神奈川39件、大阪

34件と続く。掲載数の少ない山陰・四国・九州地域の情報収集は今後強化していく必要がある。

こうした結果を踏まえて、これまで情報源としてきたインターネット情報、一般紙・専門紙誌・会報などに加えて情報源の追加を行うため、委員に対して協力を要請した。さらに、昨年開催された『日本自動車会館 親子キッズエンジニア』の集客効果が確認できたキッズポータルサイトの「いこーよ」への掲載事例を受けて、ソーシャル・ネットワーキング・システム（以下、SNS）を積極活用すべきとの意見も出された。

2. 重点イベントの支援結果と今後の活動計画

2018年10月、お台場で開催されたTMFは、自動車関連23団体が自工会のバナーを掲載、2017年のTMSの22団体を上回った。団体機関誌にも開催案内が掲載され集客・話題作りに貢献できたと考えている。

2019年TMSはこれまでの会議所会員のほか、会員支部へバナーの掲載を要請することに加えて、工作機械、素形材など自動車のものづくり関連団体とも連携する案が事務局から提案され、自工会TMS室とも今後の進め方を協議することとなった。

3. 情報発信・共有の事例紹介

イベント・行事の情報発信にSNSを活用している委員団体から事例紹介を受けた。日本自動車販売協会連合会からFacebook、日本自動車整備振興会連合会からYouTubeのほか、Twitterについては近畿運輸局自動車整備による活用事例紹介があった。

また、2018年アクセスランキング1位の「原付二輪免許」に絡んで、日本二輪車普及安全協会（以下、日本二普協）から、同協会制作の安全普及活動Webサイトの3コンテンツ（原付免許試験問題、実技講習、原付スクーターSafety Riding）の紹介があり、「原付免許を取得する人だけでなく、免許を保有している人にも閲覧していただき、交通ルールを再確認して、事故無くバイクに乗ってもらいたい」との紹介があった。さらに、毎年3月は原付免許を取得する新高校生が多いため、「クルマの情報館」で日本二普協サイトを随時紹介していく。

最後に、2019年の「クルマの情報館」は、会員と連携した情報ネットワークを強化し、アクセス数3万PV/月を目標に取り組むことが事務局から提案され、了承された。

	2018年「クルマの情報館」ページタイトル BEST20	PV
1	原付二種免許、最短2日で 警察庁が規制緩和、二輪業界は歓迎	6,065
2	警察庁、昨年の交通事故 自動ブレーキ普及で追突が目立って減少	4,092
3	親子キッズエンジニアを日本自動車会館で開催	3,487
4	自動ブレーキ普及加速、昨年の装着率9割前後	3,372
5	全ト協、第50回全国トラックドライバー・コンテストを開催	2,391
6	自動車用動力伝達技術研究組合（TRAMI）発足	1,883
7	整備専門工場、エーミング作業になお課題 日刊自動車新聞調査	1,636
8	高齢者免許更新早めに 検査・講習予約取れず失効も	1,450
9	全日本トラック協会会長が坂本克己氏に交代	1,416
10	参加体験型イベント「交通安全。アクション2018 新宿」 4月7日（土）、8日（日）に開催	1,217
11	国交省補正予算 UDタクシーに追加補助金 災害時協定が要件	1,167
12	国交省、二輪車高速道路乗り放題拡充 来春から首都圏以外でも	1,116
13	JARI、第31回国際電気自動車シンポジウム・展示会「EVS 31」（2018年秋）を 12年振りに日本で開催！	970
14	日野自動車、ICTを活用したお客様向けサービス「HINO CONNECT」の提供を開始	967
15	パナソニック、2021年度に向けた車載事業の中期戦略を発表	917
16	第58回交通安全国民運動中央大会を開催（開催日：2018年1月18日～19日）全日本交通安全協会、警察庁	858
17	第11回東北モーターショー in 仙台、2月10～12日 23ブランドが出展	834
18	体験型イベント「交通安全。アクション2018 お台場」 11月17日（土）、18日（日）に開催	816
19	大阪文化芸術フェス・万博記念公園サーキットに新旧の名車100台が集合	808
20	BSサミット、エーミング作業工数を策定 適正な修理料金の根拠に	749



小 学生を対象とした学習イベント「日本自動車会館 キッズエンジニア」が3月27日に開催され、大勢の親子連れなどで賑わった。事前予約が必要な「教室型プログラム」はほぼ満席となり、来場した子どもたち約300人（主催者推計）がさまざまなプログラムを体験。同会館には終日、子どもたちの歓声が響いた。

「キッズエンジニア」は、「次世代を担う子供たちにもものづくりの楽しさや夢を持ってもらい、将来の技術者を育成したい」として、自動車技術会が2008年から毎年実施しており、横浜と名古屋で交互に開催されている。今年も8月7日（水）、8日（木）の2日間、名古屋市港区の「ポートメッセなごや」（名古屋市国際展示場）で行われる。日本自動車会館の入館14法人は、キッズエンジニアの開催趣旨に賛同し、昨年初めて同会館で実施。昨年に引き続き、今年も多くの子どもたちが参加できる春休み期間中に開催した。

入館14法人と開催概要は次の通り。

【日本自動車会館 入館14法人（順不同）】

日本自動車工業会、自動車再資源化協力機構、日本自動車販売協会連合会、日本自動車車体工業会、全国レンタカー協会、日本自動車連盟、JAFメディアワークス、JAFサービス、日本自動車研究所、自

動車リサイクル促進センター、全国軽自動車協会連合会、日本自動車教育振興財団、東和不動産、日本自動車会議所

【開催概要】

1. 日時： 2019年3月27日(水) 10:00～15:00（一部16:30まで）
2. 場所： 日本自動車会館1階くるまプラザ他（東京都港区芝大門1-1-30）
3. 主催： 日本自動車会館運営委員会
4. 共催： 公益社団法人自動車技術会
5. 協力： カルソニックカンセイ(株)、埼玉自動車大学校、(株)ジェイテクト、トヨタ自動車(株)、日産自動車(株)、一般社団法人 日本自動車連盟(JAF)、ヤマハ発動機(株) (50音順)

日本自動車会館 キッズエンジニア 会場風景

写真は下表の「プログラム一覧」順



クルマが動く仕組みと部品の役割を熱心に学ぶ子どもたち (ジェイテクト)



親子で考えながら一緒に部品の実寸プラモデルキットを組み立て (ジェイテクト)



子どもたちとコミュニケーションをとりながら燃料電池の仕組みを分かりやすく解説 (トヨタ自動車)



教室で学んだ後、水素で走るラジコンカーを自ら操縦体験 (トヨタ自動車)

【プログラム一覧 (50音順)】

	社名	プログラム名
教室型	株式会社ジェイテクト	クルマのなかはどうやって動いているの？ 組み立てキットで工作
	トヨタ自動車株式会社	燃料電池教室 燃料電池ってなんだろう？
	日産自動車株式会社	わくわくプログラミングスクール ぶつからないクルマをつくろう
	ヤマハ発動機株式会社	誰が一番早いかな？ウインドカーを作ろう コースでタイムアタック
体験展示型	カルソニックカンセイ株式会社	自分だけのミニカーやかざぐるまが作れるよ ミニカーやかざぐるまは持ち帰り可能
	埼玉自動車大学校	クルマのせいびをたいけんしてみよう タイヤこうかんもしてみよう
	一般社団法人日本自動車連盟 (JAF)	じぶんのめんきょしょうをつくってみよう
	ヤマハ発動機株式会社	エンジンをかけてみよう キッズバイク



ぶつからないクルマをつくるプログラミングの解説を真剣に聞く子どもたち（日産自動車）



タブレットを使って、慣れない手つきでクルマを動かしてみる子どもたち（日産自動車）



金づちなども使い、風に向かって走るウインドカーを製作（ヤマハ発動機）



自分のウインドカーの走りを真剣にチェック（ヤマハ発動機）



大勢の子どもたちが一生懸命にオリジナルのミニカー作りに挑戦（カルソニックカンセイ）



自分で作ったミニカーを“試験走行”させる子どもたち（カルソニックカンセイ）



生まれて初めて「免許証」の交付を体験（日本自動車連盟／JAF）



エンジンのかけ方を指導員から学ぶ子どもたち（ヤマハ発動機）



全国7会議所から
14名が出席

内山田会長からこれまでの努力に感謝の言葉

日 本自動車会議所は3月1日、東京・港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で、全国の自動車会議所職員を対象とした「2018年度全国自動車会議所永年勤続者表彰式」を行った。同表彰式は、全国の自動車会議所に勤務する職員のうち、推薦のあった永年勤続者（概ね勤続20年以上）を対象にしており、今年度で24回目を迎えた。今回は全国7会議所から計14名の推薦があり、同日の表彰式には14名全員が出席した。

表彰式で挨拶に立った内山田竹志会長は、昨年、自動車税引き下げをはじめとする業界の統一要望を全国47都道府県知事へ届けた活動について、「全国の自動車会議所の皆さまにはこの活動に奔走いただき、自動車税引き下げの実現という画期的な成果を得る大きな力となっていただきました。この場を借りて、改めて厚く御礼申し上げます」と感謝を述べた後、次のように受章者への祝辞を続けた。

「会議所の第一線でお客さまにご対応される皆さまは、知事や行政に対する要望活動に加え、登録・検査に関する業務、交通安全や環境への取り組みなど地道な活動を通じて、自動車業界の発展に多大な貢献を果たしてこられました。日々の業務は大変ご苦労が多いものと思いますが、これまでのご尽力に対しまして、心より敬意を表します」

続いて、内山田会長から表彰状が授与され、受章者を代表し鳥羽敦子さん（愛知県自動車会議所）が、「このたびは、永年勤続表彰を賜り誠にありがとうございます。また、内山田会長よりお祝いの言葉を賜り受章者一同喜びもひとしおです。私どもは、これを1つの節目として、また新たな気持ちで業務に励んでいきたいと思っております。今後とも温かいご指導

とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます」と謝辞を述べた。

鳥羽さんはさらに、これまでを振り返りながら、「自動車保有台数が全国1位である愛知県において、長年業務に携わってきました。今、この場に立たせていただけるのは、たくさんの先輩や上司、そして職場の同僚に恵まれてきたからだと思い、感謝しています。この仕事に対してのやりがいや周りからの助けがあり、長く続けてこられたものと思います。平成最後の年に受章させていただいたことは、一生忘れません」と挨拶を締めくくった。

この後、来賓として参加した各会議所代表者も交えて記念撮影を行った。また、表彰式終了後、水上バスで隅田川を移動し、東京・台東区浅草で懇親会を開催、なごやかな懇親の輪が広がった。

◇2018年度全国自動車会議所永年勤続表彰受章者は次の通り（順不同）。

- ・中島 亨さん（宮城県自動車会議所）
- ・沢田 正樹さん（福島県自動車会議所）
- ・水野 直子さん（福島県自動車会議所）
- ・栗飯原 祥恵さん（神奈川県自動車会議所）
- ・杉本 充さん（神奈川県自動車会議所）
- ・杉山 裕子さん（神奈川県自動車会議所）
- ・服部 りかさん（静岡県自動車会議所）
- ・一見 智子さん（静岡県自動車会議所）
- ・鳥羽 敦子さん（愛知県自動車会議所）
- ・山田 美紀さん（愛知県自動車会議所）
- ・池田 淳子さん（愛知県自動車会議所）
- ・松岡 みさ子さん（岐阜県自動車会議所）
- ・岸田 今日子さん（岐阜県自動車会議所）
- ・中井 花代さん（富山県自動車会議所）



挨拶をする内山田会長



愛知県自動車会議所の鳥羽敦子さんから謝辞



内山田会長（前列中央）を囲んで記念撮影



静岡県自動車会議所の山下専務理事の乾杯で和やかに懇親

エコドライブで明日への架け橋を。

明日の地球のために、明日の自分のために。

START!
ECO DRIVE



エコドライブ10のすすめ

- ① ふんわりアクセル『eスタート』
- ② 車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転
- ③ 減速時は早めにアクセルを離そう
- ④ エアコンの使用は適切に
- ⑤ ムダなアイドリングはやめよう
- ⑥ 渋滞を避け、余裕をもって出発しよう
- ⑦ タイヤの空気圧から始める点検・整備
- ⑧ 不要な荷物はおろそう
- ⑨ 走行の妨げとなる駐車はやめよう
- ⑩ 自分の燃費を把握しよう

エコドライブ
しよう!

日本自動車会議所

新たなモビリティサービス実現に向けた課題と展望



ITS Japan専務理事 天野肇氏が講演

第256回 会員研修会開催

日 本自動車会議所は2月19日、東京・港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で第256回会員研修会を開催し、ITS Japan専務理事の天野肇氏が「新たなモビリティサービス実現に向けた課題と展望」と題して講演を行った。参加者は約70名。

【講演のポイント】

(1) 交通問題および社会的課題への取り組み

ITS Japanでは、「交通事故ゼロ、渋滞ゼロ、快適移動」をビジョンに、ITS (Intelligent Transport Systems: 高度道路交通システム) に関連する各種の提言やビジネスの実現、世界会議の主催や出席などの活動をかねてより実施してきた。

現在は、これまでの活動内容を継続しつつ、「少子高齢化」「地方経済の衰退」といった日本が抱えている社会的課題の解決にITSがいかに貢献できるかをテーマに議論を進めており、「安全で健康的に、全ての国民がどんな地域でも暮らせる日本」を目指して方針策定を行っている。

(2) ITSをめぐる国際競争の激化とわが国の動向

わが国でも前述のITSに関するさまざまな取り組みが行なわれている一方で、米国では「スマートシティ・チャレンジ」がオハイオ州コロンバスで行なわれ、ニューヨークやタンパでもITSの実証実験を開始。欧州でも欧州委員会主導による取り組みをはじめとして各国独自のプロジェクトが進められており、ITS分野での国際競争が日々激化している。

日本政府としても昨年閣議決定した「未来投資戦略 2018」の中で、日本から世界に先駆けて自動運転、

ならびに公共交通全体のスマート化を含む次世代モビリティシステムを実現するとの方向性を示した。また、同日には「官民ITS構想・ロードマップ 2018」で「世界一のITSを構築し、日本、世界に貢献する」として、

2020年の高度な自動運転の実現に必要な法制度の整備を進めることが決定された。

(3) 新たなモビリティサービスの実現に向けて

ICT (情報通信技術)、自動運転等の新たな技術開発などが進展し、様々な移動を1つのサービスとして捉えるMaaS (Mobility as a Service) の概念が登場した。こうした交通分野の様々な課題を解決するMaaSなどの新たなモビリティサービスの活用により、都市・地方が抱える交通サービスの諸課題を解決することが目指されている。

MaaSの実現は、地方部における交通手段の確保、都市部における渋滞緩和、さらにはスマートシティの実現等にも資する。ITSは「スマートシティ」といった新たな価値創造に資するものであり、社会が抱えるさまざまな課題の解消につながっていくものである。

ITS Japanは引き続き産官学の連携の要として、安全で円滑、利便性の高い道路交通の実現を目指し産官学の連携に積極的に取り組む。今後とも皆様のご協力をよろしくお願ひしたい。



天野肇氏

2018年度会員研修会開催実績

全11回に延べ900人が参加

リクエストの多い自動運転・CASE関連テーマで6回開催

2018年度の会員研修会は、合計11回開催し、延べ約900人の方々にご参加いただきました。毎回実施しているアンケートのご回答を踏まえ、全11回のうち半数超の計6回にわたり、リクエストの多い自動運転・CASE関連テーマを取り上げました。2019年度も引き続き、皆さまの関心の高いテーマを取り上

げながら、業界に関係するさまざまな分野を中心に、時機を得た重要なトピックを取り上げていく予定です。なお、会員研修会は1994年4月から始まり、2019年3月で第257回を迎え、延べ約2万人の皆さまにご参加いただいております。

会員研修会実施一覧

※網掛けは自動運転・CASE関連テーマ

開催日	テーマ	講師	
4月11日	技術革新が地域公共交通改革の突破口を開くために	名古屋大学大学院環境学研究科付属 持続的共発展教育研究センター	教授 加藤 博和
5月24日	日本・海外経済の実相 ～シェアリングエコノミーとこれからのモビリティ～	日本経済研究所	チーフエコノミスト 専務理事 鍋山 徹
6月29日	自動車産業の近未来	東京大学大学院経済学研究科 ものづくり経営研究センター	教授・センター長 藤本 隆宏
7月24日	クルマ社会の自動化と電動化 ～そして日本勢に主導して欲しい新たな移動社会～	㈱ローランドベルガー	代表取締役社長 長島 聡
9月5日	自動車新時代戦略会議中間とりまとめ	経産省製造産業局 自動車課	参事官 小林 大和
10月17日	高齢化社会における効果的な事故予防対策の実践	滋賀医科大学医学部社会医学 法医学部門	教授 一杉 正仁
11月20日	アナリストが占う自動車産業の未来	SMBC日興証券株式調査部	シニアアナリスト 渡邊 洋治
12月17日	自動車産業における稼ぐ力のレベルアップと ESGの考え方	三菱UFJスタンレー証券㈱ エクイティリサーチ部	リサーチアドバイザー 松島 憲之
1月18日	いま問い直す「働くこと」の意味	東京大学社会科学研究所	教授 宇野 重規
2月19日	新たなモビリティサービス実現に向けた課題と展望	ITS Japan	専務理事 天野 肇
3月20日	CASE革命 2030年の自動車産業	㈱ナカニシ自動車産業リサーチ	代表・アナリスト 中西 孝樹

訃

報

トヨタ自動車元副会長
日本自動車会議所元副会長
日本自動車工業会元会長

岩崎 正視氏

トヨタ自動車元副会長で、当会議所元副会長の岩崎正視氏が3月1日、逝去された。93歳だった。

岩崎氏は1948年10月、トヨタ自動車の前身であるトヨタ自動車工業に入社。1982年9月専務、1986年9月副社長を経て、1992年9月副会長に就任された。

1995年、当時、日本自動車工業会会長だった豊田達郎・トヨタ自動車社長が病気のため急きょ会長を退任したことから、代わって岩崎氏が自工会会長に就任、日本車をめぐる日米貿易摩擦の收拾に尽力された。また、自工会会長として、1995年6月～1996年6月まで当会議所副会長を務められた。

愛知県経営者協会会長、サッカーJリーグの名古屋グランパスエイト社長、名城大学理事長なども務められ、中部経済の発展にも大きく貢献された。

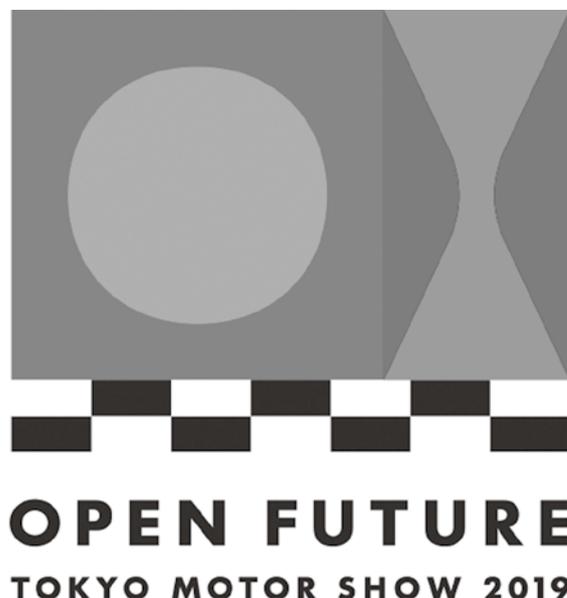
「未来への可能性が広がる場に」

第46回東京モーターショー2019 ショーテーマとロゴデザインが決定

今秋開催される「第46回東京モーターショー2019」のショーテーマとロゴデザインがこのほど決まった。

ショーテーマは「OPEN FUTURE」。主催者の日本自動車工業会（豊田章男会長）は、「お客さまにお楽しみいただけるさまざまなコンテンツを通して、東京モーターショーが未来への可能性が広がる場になることをビジョンとして掲げ、この思いをショーテーマとロゴデザインに表現した」としている。

東京モーターショー2019は、東京・江東区有明の東京ビッグサイトおよびお台場周辺エリアで10月23日～11月4日までの12日間にわたって開催される。



国内最大級の自動二輪車関連展示会「第46回東京モーターサイクルショー」＝写真＝が3月22日～24日まで、東京・江東区有明の東京ビッグサイトで開かれた。最新車両555台をはじめ、パーツ・アクセサリなど関連商品を一堂に展示するとともに、女性ライダーのトークショーなど多彩なイベントを展開。来場者数が3日間で延べ14万9,524人と過去最高を記録する盛況となった。

同展示会は1971年に第1回が開催され、今年で46回目を数える。出展者数153（前年135）、総小間数926.2（同882）といずれも前年を上回る規模で開催された。会場では、トライアルやモトクロス、ロー

ドレースの選手らによるトークショーや女性ライダーによるトークショーといった二輪車愛好者向けのイベントだけでなく、警視庁女性白バイ隊「クイーンスターズ」によるデモ走行や「仮面ライダー」の特別展、子どもでも乗ることができる小さなオートバイ、ポケバイを体験できる「親子バイク祭り」など家族連れも楽しめるさまざまな催しが繰り広げられた。

開催にあたっては、高校生とその友達を無料で招待する「高校生早割キャンペーン」や2008年以降に新規免許証を取得した人を無料で招待する「新ライダー割キャンペーン」を実施。目的のブースをスマートフォンで探せる仕組みを導入するなどIT（情報技術）を駆使して集客力を高めた。

主催者である東京モーターサイクルショー協会の赤坂正人会長は初日の開会式で、「まだまだ総来場者数に占める若年層や新しい世代のお客さまは少ない。今後どんどん新しいお客さまを獲得し続けていくことが課題だ」と挨拶。これからも二輪車愛好者のすそ野拡大に努める考えを示した。

〔東京都自動車会議所〕

日本自動車会議所ホームページ

新着情報ランキング(2019.3/1～3/31)

Google アナリティクスより

	ページタイトル	ページビュー数
1	トップページの「キッズエンジニア」バナー	2731
2	国交省、新たにエーミング作業も分解整備の定義に追加	1051
3	国交省、車検証をICカードに22年度中に切り替え	611
4	参加体験型イベント「交通安全。アクション2019 新宿」4月6日(土)、7日(日)に開催	568
5	国交省、自動運転システム整備に認証制度を新設へ 名称「特定整備」に	509
6	パナソニック、2021年度に向けた車載事業の中期戦略を発表	338
7	国交省、ホワイト物流の推進体制構築 長時間労働を是正	309
8	OBD車検、エーミング未実施は不合格 スキャンツール機能拡充が不可避	304
9	「日本自動車会館 キッズエンジニア」を3月27日(水)に開催	285
10	警察庁、昨年の交通事故 自動ブレーキ普及で追突が目立って減少	279
11	自動車用動力伝達技術研究組合(TRAMI)発足	265
12	自動ブレーキ普及加速、昨年の装着率9割前後	252
13	ト販協、新体制発足 理事長に横田氏(群馬トヨタ社長)	202
14	原付二種免許、最短2日で警察庁が規制緩和、二輪業界は歓迎	197
15	軽検協、OSS開始を延期 省令の改正作業に遅れ	183
16	軽量化の有力技術、進化するマルチマテリアル	183
17	経産省、全固体電池の開発加速 30年の本格普及目指して	157
18	高齢者免許更新早めに 検査・講習予約取れず失効も	152
19	国交省補正予算 UDタクシーに追加補助金 災害時協定が要件	146
20	国交省 10連休時の車検、あらかじめ余裕を持って 事前検査推奨	144
21	モータースポーツジャパン2019、東京お台場で4月6日・7日に開催決定	139
22	トヨタ九州、宮田工場で「スプリングフェスタ2018」を開催	136
23	金型代金、実態は中企庁など部品メーカー調査へ	132
24	BSサミット、エーミング作業工数を策定 適正な修理料金の根拠に	122
25	軽自動車検査協会 2019年1月4日から軽自動車OSSを開始します	118
26	全日本トラック協会会長が坂本克己氏に交代	118
27	欧州のCO2排出規制強化、対応迫られる日系各社	115
28	高校生ものづくりコンテスト全国大会、将来のスペシャリスト育成	109
29	整備専門工場、エーミング作業にお課題 日刊自動車新聞調査	109
30	第257回会員研修会「CASE革命2030年の自動車産業」	108
31	「日本自動車会館 親子キッズエンジニア」を2018年3月28日(水)に初開催	104
32	日刊自予測 今年の国内新車市場、登録車337万台 軽198万台	101
33	二普協 「二輪車安全運転全国大会2019」、8月に鈴鹿サーキットで開催	94
34	国もEDR搭載の義務付け方針を打ち出す、事故時の責任を速やかに特定	92
35	日野自動車、ICTを活用したお客様向けサービス「HINO CONNECT」の提供を開始	90
36	日刊自動車新聞創刊90周年記念第2弾 「自動車産業シンポジウム」	81
37	経産省 消費増税時のポイント還元、自動車ユーザーにも恩典	80
38	第258回会員研修会「自動車産業からみる国際情勢」(仮題)	74
39	トヨタ、新型RAV4の国内仕様車公開	72
40	減少続くガソリン需要、次世代車が普及 今年度 2.1%減予測	72
41	住民拠点SS約140カ所 自家発電機の全国配備着々と	72
42	都営バス 水素バス3台を追加導入 丸の内ー東京ビッグサイト	72
43	経産省IoTやAIを活用した新たなモビリティサービス(MaaS)の普及に向けて、本年2月を「スマートモビリティ推進月間」とし、イベントを開催	71
44	東名高速道路全線開通50周年記念「次の日本の課題解決に繋がる高速道路を考える」フォーラムを開催	69
45	国交省、スペアタイヤ・ツールボックス点検 義務化前に明確化	68
46	会報「自動車会議所ニュース」2019年3月号を掲載	67
47	外国人労働者、整備業の受け入れ7千人 法務省想定	67
48	日本自動車会議所 専務理事が山岡正博氏に交代しました	67
49	豊通オートモーティブクリエーション、「車両下部検査装置」を発売	67
50	日・EUのEPAが発効 完成車・部品の競争力向上に期待	65
	計(51番目以降も含む)	33,721

大門 ペソ 倶楽部

Vol. 35

同国の状況がほとんど報じられないからである。また、日本からラオスへの直行便がないので、日本人観光客は年間4万人余りと少ない。

ラオスの面積は約24万平方kmで、日本の本州とほぼ同じだ。人口は約690万人。隣接国のベトナム(約9,300万人)やタイ(約6,900万人)に比べてかなり少ない。人口は首都ビエンチャン(約82万人)に集中しており、そこだけは急速に近代化が進んでいる。

ラオスは「タイプラスワン」の国として注目されている。同国は①人件費がタイの2分の1と安い、②鉱物資源や電力が豊富で、電気料金は安価、③社会主義国で、政治が安定している、④仏教徒が多く、国民は温和で親日的、⑤特惠関税適用国であるため、同国から日本に靴などを輸入する場合、無税である——などのメリットがあるからだ。タイで大洪水があった2011年以降、ラオスにはカメラメーカーのニコンや大手自動車部品メーカーのトヨタ紡織、カッラメーカーのアデランスなど日本企業が徐々に増え、現在約140社が進出している。今年に入ってからHOYAが同国に大規模工場(2021年6月までに4,000人採用)を造る方針を決定。工場ではハードディスクドライブ用のガラス基板を製造する計画だ。

日本人が意外と知らない国ラオス

時事総合研究所 客員研究員 山川 裕隆



交通渋滞するビエンチャン中心街

ビエンチャン市内は自動車が増加し、朝夕の通勤時間帯は渋滞している。トヨタ自動車や日産自動車、ホンダ、三菱自動車、マツダ、スズキ、いすゞ自動車など日本車の販売店もある。自動車は日本車だけではなく、現代自動車や起亜自動車の韓国車もかなり走っている。東南アジアの国々は日本車が圧倒的に多いが、ラオスは日本車と韓国車のシェアが拮抗している。韓国車がラオスで善戦しているのは、韓国車に対する月賦販売が強化されていることや日本車に比べて安いことが主因のようだ。また、ドイツのメルセデスベンツやBMWなどの高級車販売店もある。

ラオスの1人当たりの国内総生産(GDP)は2,599ドル(2018年)だが、ビエンチャンは2倍の約5,000ドルだ。3,000ドルを超えると車が売れるというが、ビエンチャンはまさにそうした時代に入っている。

日本自動車会議所会員(平成31年4月10日現在)=団体会員88、順不同=

一般社団法人 日本自動車工業会
一般社団法人 日本自動車部品工業会
一般社団法人 日本自動車車体工業会
一般社団法人 日本自動車タイヤ協会
一般社団法人 日本自動車販売協会連合会
いすゞ自動車販売店協会
トヨタ自動車販売店協会
日産自動車販売協会
U D トラックス販売協会
日野自動車販売店協会
三菱自動車販売協会
三菱ふそうトラック・バス販売協会
全国スバル自動車販売協会
ダイハツ自動車販売協会
全国マツダ販売店協会
スズキ自動車販売店協会
ホンダ自動車販売店協会
一般社団法人 全国軽自動車協会連合会
日本自動車輸入組合
一般社団法人 日本中古自動車販売協会連合会
一般社団法人 日本自動車整備振興会連合会
一般社団法人 日本自動車機械工具協会
公益社団法人 全日本トラック協会

公益社団法人 全国通運連盟
公益社団法人 日本バス協会
一般社団法人 全国ハイヤー・タクシー連合会
一般社団法人 全国自家用自動車協会
一般社団法人 日本損害保険協会
石油連盟
一般社団法人 全日本指定自動車教習所協会連合会
一般社団法人 全国自動車標協協議会
一般財団法人 自動車検査登録情報協会
一般社団法人 全国レンタカー協会
一般社団法人 日本自動車リース協会連合会
一般財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会
一般社団法人 自動車公正取引協議会
全国自動車検査登録印紙売捌人協議会
一般財団法人 関東陸運振興センター
一般社団法人 東京都トラック協会
一般社団法人 神奈川県トラック協会
一般社団法人 日本道路建設業協会
一般社団法人 日本ゴム工業会
一般社団法人 日本塗料工業会
板硝子協会
日本自動車車体整備協同組合連合会
一般社団法人 日本交通科学学会

一般社団法人 日本陸送協会
一般社団法人 日本二輪車普及安全協会
一般財団法人 日本自動車研究所
一般社団法人 日本自動車機器具工業会
一般財団法人 日本自動車査定協会
一般財団法人 全日本交通安全協会
公益財団法人 日本自動車教育振興財団
一般社団法人 日本鉄リサイクル工業会
全日本自動車部品卸商協同組合
特定非営利活動法人 ITS Japan
公益社団法人 自動車技術会
公益財団法人 自動車リサイクル促進センター
一般社団法人 自動車再資源化協力機構
一般社団法人 日本ガス協会
一般社団法人 日本自動車運行管理協会
日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会
一般社団法人 自動車用品小売業協会
一般社団法人 日本オートオークション協議会
日本中古車輸出業協同組合
全国オートバイ協同組合連合会
日中投資促進機構
一般社団法人 青森県自動車団体連合会
一般社団法人 若手県自動車会議所

一般社団法人 宮城県自動車会議所
一般財団法人 秋田県全自動車協会
山形県自動車団体連合会
一般財団法人 福島県自動車会議所
東京都自動車会議所
一般社団法人 神奈川県自動車会議所
一般社団法人 静岡県自動車会議所
一般社団法人 愛知県自動車会議所
一般社団法人 岐阜県自動車会議所
一般社団法人 三重県自動車会議所
一般社団法人 富山県自動車会議所
一般社団法人 石川県自動車会議所
一般社団法人 福井県自動車会議所
一般社団法人 大阪自動車会議所
一般社団法人 徳島県自動車会議所
一般社団法人 香川県自動車会議所
愛媛県自動車会議所
一般社団法人 高知県自動車会議所
一般財団法人 大分県自動車会議所

(ほかに企業会員77、推薦会員6)